

其他本村には小池宮の後に面足神社(祭神面足尊)菅原道真(山中登城に稻荷神社)祭神倉稻魂尊(淺間神社祭神木花咲耶媛命)芝山東作に熊野神社(祭神速玉男命、伊弉册命)殿部田宮台に日月神社(祭神大日靈貴命、月夜見命)境宮台に八幡神社(祭神譽田別命)高谷大宮に大宮神社(祭神大國主尊、大山祇命)高田八坂台に八坂神社(祭神素盞鳴尊、面足尊)小池元高田に八幡神社(祭神譽田別尊、氣長足命)新井田谷津原に面足神社(祭神面足尊、高皇產靈尊)新井田新田廣畑に石上神社(祭神大日貴命)牧野宮崎に稻荷神社(祭神倉稻魂尊)等あり。

佛閣

觀音寺

〔佛閣〕
觀音寺 本村大字芝山にあり、天台宗上野寛永寺の末派にして中本寺なり、詳しきは上編に記す、尙本村には山中に德藏寺、高谷に滿藏寺、殿部田に東昌寺、大久保に眞福寺、小池に眞珠院、牧野に明王院、新井田に稱名寺、小池に本圓寺あり。

舊蹟

芝山觀音

〔舊蹟〕
芝山觀音 本村大字芝山にあり、房總の名利として一千百三十餘年の歴史を有する靈場なり、寺域丘陵に據り、老杉巨松鬱蒼として天に聳え、伽藍其間に點在す。附

殿部田の館址

近に公園あり、設備全からずと雖も一日の清遊に適せり。
殿部田の館址 本村殿部田區にあり、鎌倉時代千田の莊司(千葉介常胤の弟胤幹)の居りし處たり、大隅守安西貞胤國に移り、宗家(千葉氏)の直轄となる、東鑑によれば平清盛の孫下總介秀衡州の目代たりし時、此處に居たりしと云ふ、尙本村には大台小池山中等の城址あり。

人物

櫻井靜

〔人物〕
櫻井靜 本村大字小池に生る、資性温厚にして德望あり、明治二十三年選ばれて衆議院議員となり、又北海道に渡りて開拓に従事せり(詳しきは上編に記す)。

羽人居士

羽人居士 本村大字山中の人俳人として其名著し、資性活淡自ら西行法師の人性觀に酷似したる生活に甘んせりと云ふ、晩年著述に志し、徐ろに原稿を作り、未だ脱稿に至らずして病歿す、門下に多くの俳人を出せり。

凸齋翁

凸齋翁 信州松本に生れ、諸方に流寓して本村に來り、遂に永住するに至れり、翁該博の識あり、殊に數學に長じ、漢籍を講じ、數學を説き、子弟の教養に努めたり。

櫻井吉藏

櫻井吉藏 本村大字小池に生れ、温厚篤實にして公共の念厚く、私財を抛ちて道路

橋梁の修繕を行ひ、學校校役場の造營等には率先して多額の財を投じ、自ら監督指揮の任に膺り、以て自ら樂みとせり、目下二川小學校の一棟は氏の寄附に係れりと云ふ、明治三十八年四月十二日病歿す。

伊東祐之

伊東祐之 元治元年九月十四日武射郡小池村に生れ、明治十七年七月千葉中學校を卒業せり、木内重四郎氏と閩里相接するを以て交遊最も親しく研鑽相勵めり、明治二十二年七月木内氏命を奉じて歐米に渡航するや、君も亦時勢の趨向に感ずる所あり、志を決し船を同ふして米國に到り、[テ]ンネツシー[州]レバノン大學校に入り、法學を修め法律學士の稱號を得、歸朝の後日本銀行營業課長となり、國內は勿論滿州を巡遊して金融の情況を視察し大に劃策する所あり、辛丑の歲五月同行の命により歐米諸國に於ける銀行業視察の途に上り米國に上陸するや俄に心臟病起りしも病を扶けて歐洲に廻航し、和蘭海牙府に到るや、病勢怠らず、同地病院に入り具に靜養を加ふ、文學博士白鳥庫吉は醫學博士大西克巳氏と共に獨乙より來りて之を訪問し慰籍する所あり、其他知友相集り看護に盡せしが藥石効なく、竟に同年十月一日を以て不歸の客となれり、享年三十八才。

隨巢羽人

隨巢羽人 上總武射郡山中の産、名は典見また習齋と號す、天明五年五月二十日を以て生る、弱冠より風雅を好み蕉門の支流たる飛鳥園天隨翁を師として俳道を學ぶ、天保五年三月薙髮して隨巢羽人と號し各地を遊歴すること數年、歸郷の後復び俗髮して世塵と交る、幾くもなく家業を親屬に任せて出府し、神田紺屋町に俳屋を構へて諸大家と交遊す、就中時の大家風朗、風外、中干老と親しく交り、風談甚多し、嘉永二年藤の實集の著述あり、同四年本所松倉町に出張所を構へ、日夜風交多く此頃松庫と云へる別號あり、當時江戸に於ける俳道の大家として知られ、藤の實集外數卷の著述あり。

内田庄平

内田庄平 本村新井田の人なり、幼時瓢然家を去りて甲信地方を歴遊し、數年の後故山に歸り意を産業の開發に留め、荒蕪地數十町歩を開拓し、専ら力を桑樹の栽培に盡し、信州方面より苗木を購入し、盛に植栽せり、當時之を解するものなく、氏の計劃の寧ろ冒險的なるに驚かざるものなかりきと云ふ。明治四年に至り上野國より養蠶に堪能なるものを聘し、平附蠶種十枚の飼育を試みたりしが、失敗し重ねて之を經營するも遂に一繭だも得ること能はずして、遂に數万金を損失するに至れ

り、されど氏の志固より鐵石の如く、益々苦心と實驗とを重ね、明治十五年に至り始めて僅少の成繭を見ることを得、益々事業を擴張し、後遂に數百貫の收繭を見ることを得、初めて世間の疑問を解くに至れり。是に於て世人來りて桑苗を求むる者續出し、日に一萬本の苗木を供給するに至れりと云ふ、當地方に於て蠶業の開けたるは氏の賜なりと云ふべし、明治十九年政府の知る所となり、賞狀並に銀盃を賜ひて之を褒賞せらる。

第十六節 千代田村

總説

〔總説〕

千代田村は、山武郡の最北端に位し、深く香取印旛二郡の間に突入し、東北は香取郡多古町に、西北は印旛郡遠山村及び富里村なる下總御料牧場に、南は二川村に接す。本村の地勢は御料牧場より東南に向て走り、大總村谷臺及び松尾町に至りて盡く、二丘陵の間に在るを以て東北西の三方は丘陵にて圍まれ、栗山川の支流高谷川は源を多古町一鍛田より發し、東南に向ひ此二丘陵の間を貫流せり。

面積人口
戸數

本村は菱田、香山新田、大里、東加茂、西加茂、白楸、坂志岡、住母家稻葉の六箇村なりしが、明治八年十一月合併して大里と稱す、岩山、朝倉、飯櫃、山田、小原子の八區より成り、面積一千六百七十町八段歩、人口三千五百六十八、戸數六百三十を有せり。

〔沿革〕

大永年中飯櫃城主山室常隆の所領となり、天正十八年十二月山室氏亡ひ、徳川氏の領する所となり、多古城主保科正直及土井利勝に屬し、慶應明治の交太田備中守遠州掛川より本郡松尾に移封せられてより、太田氏の所領となる。

明治四年七月廢藩置縣により、全年十二月木更津縣の所轄となり、同六年六月千葉縣に移り、大小區扱所の制により第九大區三小區扱所を柴山に置き、武射郡北部五十餘村を管す。同八年區劃改正により第九大區三小區扱所を大里に轉し、上下吹入、山田、小原子以北の地を其區域となせり。同十年八月區劃改正により三小區を大里、菱田、香山新田、上下吹入とし、岩山、朝倉、飯櫃、山田、小原子、牧野を十二小區とし、扱所を岩山に置きたり、同十一年十一月郡區町村の編制となし、山邊武射郡役所を東金町に置き、岩山村外四ヶ村(山田、小原子、飯櫃、朝倉)戸長役場を岩山村に、大里村外二

ケ村菱田、香山新田、戸長役場を大里村に置き、以て村治を扱はれたり。同十七年八月大里村外六ヶ村菱田、香山新田、岩山、朝倉、飯櫃、小原子聯合、戸長役場を大里村に置れたり。此際山田村は大臺村外九ヶ村と聯合し、同二十二年四月町村自治制の實施に際し、八ヶ村を併合し千代田村と稱するに至れり。この地方を總稱して千田の莊と云ひしよりその千田に因みこれに代を挿入して千代田と名く。舊幕時代に於ける各大字の領主及び石高を列記せば左の如し。

小原子村	五百四石二斗	五十五戸	永井直次郎	青木與二郎
山田村	六百三十三石四斗七升九合	七十七戸	松平豊前守	新庄與十右衛門
飯櫃村	百五十九石三斗三升三合	二十二戸	松平豊前守	
朝倉村	百四十七石	二十戸	松平織部	
菱田村	七百三十四石九升六合	百十六戸	御料所	永田四郎三郎
住母家村	二百四石三斗一升五合	二十六戸	青木傳五郎	大岡治郎兵衛
加茂村	四百二十石九升九合	八十一戸	小田切土佐守	坪内仙太郎
岩山村	千百九十八石三斗二升八合	百二十二戸	逸見八左衛門	上田萬五郎
坂志岡村	百八石一斗一升二合	十三戸	山口房之助	青木新五郎
			堀口喜之助	永井勘兵衛
			本多金之助	奥津内記
			御料所	松平豊前守

産業

〔産業〕

本村は山間の農村なるを以て、村民の多く商工業を營むものは一小部分に過ぎず。産物は米、麥、大豆、玉蜀黍、蕎麥、落花生、蔬菜、薪炭等なり。

交通

〔交通〕

本村は東西に起伏連亘せる二派の丘陵間に介在せるを以て、道路曲折多く従て坂路も亦多し。交通尤も不便を極む幸に輕便鐵道の敷設せられてより、稍々便益を感ずるに至れり。

輕便鐵道多古線は成田より來り、三里塚を経て、本村に入り、香山新田、菱田を過ぎ多古町に至る、停車場は坂志岡にあり。縣道は二條あり、一は三里塚より來り香山新田と坂志岡との堺を過ぎ、加茂の南端を経て多古町に通じ、一は三里塚より來り、岩山の西境を過ぎ松尾町に通ず。標要里道一は二川村大台より來り、山田、飯櫃、淺川、白楨を経て加茂にて縣道に接す。

白楨村	七百石	十七戸	米津播磨守	
稻葉村	百五十二石三斗四升四合	十三戸	御料所	小栗又市

行啓記念
道路

一は香山新田の西端なる縣道より千代田停車場に通ずるものなり。
行啓記念道路 岩山台宿より千代田停車場に達するものと菱田宿より千代田停車場に通ずる二條にして、明治四十四年 皇太子殿下總御料牧場へ行啓あらせられたるを紀念するため、青年團の經營したるものなり。

郵便 芝山郵便局の集配區域に屬し、大里は二回他は一回毎日集配せらる。

役場

〔役場〕

大里に在り、明治廿二年以來の村長の氏名を擧ぐれば、

池田與四郎 明治廿二年 麻生元右衛門 全廿五年 萩原庄一郎 全廿八年 小川大治郎 全廿九年 小川茂
兵衛 全三十二年 小川愛治 全三十四年 長谷川助太郎 全三十四年 萩原庄一郎 全三十五年 麻生次郎 全三十
二月 平島平治郎 全三十八年 萩原庄一郎 全三十八年 小川大治郎 全三十八年 小川愛治 全三十九年 萩原
庄一郎 全四十年 内田左次郎 全四十二年 石井正之助 全四十二年 小川大治郎 全四十二年 萩原庄一郎
全四十二年 小川松之丞 全四十四年 九月就職 小川松之丞 全四十四年 九月就職

學校

〔學校〕

本村には千代田、菱田、岩山の三小學校あり、千代田小學校は飯櫃にあり、明治六年十

千代田尋

高等小學

一月の創設にして最初は寺院を假用せしが、同二十二年池田榮亮氏獨力を以て校舎を新築せり。現在尋常科三學級高等科一學級を編制し、尋常科には飯櫃、山田、小原、岩山の内淺川、大里の兒童を收容し、高等科には全村兒童を收容せり。

創立以來の校長氏名を列記すれば、
古川 南 全 至全 自明治六年十一月十五日 青柳 巖 全 至全 自明治十一年七月十五日
安達 利 介 全 至全 自明治十二年四月 磯部 謙 吉 全 至全 自明治廿四年七月廿五日
高橋 伊 一 郎 全 至全 自大正三年三月三十一日

菱田尋常
小學校

菱田尋常小學校は菱田區にあり、菱田、香山新田、大里の内住母家、坂志岡の兒童を收容し、三學級に編制す。本校は明治六年創立の當時は寺院を校舎に假用せしが、明治四十三年現校舎を新築せり、今創立以來の校長氏名を左に記さん。

奥 瀨 爲 輔 全 至全 自明治六年十一月 齋 木 寅 助 全 至全 自明治十九年四月
高橋 淺 次 郎 全 至全 自明治二十年七月 日 色 長 五 郎 全 至全 自明治二十年六月
渡邊 八百 治 全 至全 自明治二十一年九月 平 野 丑 松 全 至全 自明治二十三年一月
黒 澤 忠 義 全 至全 自明治三十五年六月 今

岩山尋常小學校は岩山區にあり、明治九年十月の創立にして、民家を假用し來りしが、明治十六年新築し、更に明治四十一年一部の増築を行ひ、大正元年更に一棟の増築を行ひ、大に完成せり。而して本校は三學級の編制にして、岩山、朝倉、山田の内金堀の兒童を收容す。

柴田勝、小川謙次、川島泰三、高橋淺次郎、矢部彌吉訓導として勤務し、明治廿六年七月二十日、中川隆三郎訓導兼校長に任せられ、大正三年三月まで勤務せしが、木川敬吉其の後を承きて現任たり。

〔神社〕

神社
春日神社

春日神社 郷社にして、大里區にあり、武甕槌命、經津主命、天兒屋根命、比咩大神を祭る、委しくは上編にあり。

此他本村に於ける神社は

鹿島神社 菱田區にあり、武甕槌命を祀る。

面足神社 山田區にあり、面足命を祀る。

兩社神社 村社にして、小原子區宮後にあり、譽田別尊、天兒屋根命を祀る。大同二

兩社神社

年九月十九日の創建にして、往昔は八幡春日の兩大神を崇敬し、産土神と稱したりしが、明治二年神號を兩社神社と改稱し、明治四十年村社に列し、毎年九月十九日例祭を行ふ。

御嶽神社 小原子區にあり、國常立尊を祀る。

高野神社 飯櫃區にあり、天照大神、市杵島姬命、足仲彦命、彌都波能賣命を祀る。大同二年三月の創建なり。

この他菱田に面足神社、大里に六所神社、大里に菊理神社、熊野神社、岩山に四所神社、朝倉に巖島神社、山田に日吉神社、面足神社あり。

〔佛閣〕

佛閣

菱田に吉祥院、藥王寺、龍泉院あり、大里に普賢院、寶臺院、西光寺、長壽院、明王院、承天寺、寛珠院、安養院あり、共に眞言宗なり、飯櫃に蓮福寺、德藏寺あり、共に日蓮宗なり、山田に金光寺、花藏院、福性寺あり、共に眞言宗に屬す、小原子に西福寺あり、又眞言宗なり。

〔舊蹟〕

舊蹟

飯櫃城址 飯櫃區の中央なる高爽の地にあり。(上編に詳なり)

飯櫃城址

笹山城址

●笹山城址 大里區加茂字笹に山あり、笹山平六左衛門の居城たりしと云ふ、千葉氏と共に亡ぶ。

朝倉岩窟

●朝倉岩窟 朝倉區字洞谷にあり、此附近一帯の丘陵にして、斷崖絶壁の處多し、此處に高五六尺幅四五尺深四五尺の岩穴あり、是れ往昔穴居の趾ならんか、明治十五年一部の斷崖崩壊し、一穴を見はしたるに穴中より人骨刀劍及畸形なる素焼の徳利出てたり、其徳利今猶手島利司氏に藏せり。

五十石込

●五十石込 岩山區字五十石にあり、是れ佐倉七牧の一なる香取牧に放飼せる野馬を驅集して捕獲せし處なり。

清瀧姫の御手洗

●清瀧姫の御手洗 山田區金光寺舊跡の東方にあり、距離相等しく三つの池あり之れ清瀧姫の御手洗にして、最も近き池は大き十五坪許り、里人崇敬して常に之を清め新年には松飾を施す、中なるは大き前のご同く今は溜池となり、灌漑の便に供せらる最も遠きは大きは僅か一坪位にして、三株の老松池に臨みて繁茂し、頗る風致に富む、里人傳へてべろいむごと云ひ、井水褐色を帯び常に増減なし、此井水を塗る時は口中一切の病を治すとて、參詣するもの絶わす。

人物

木川峰右衛門

兵部卿なりける人の罪を得てこの山田の里にさすらひしが、其の子を孫三郎と申しけり、延暦中平安京を造られし時孫三郎も役徒に加はりて京に上りしが、或る日やんごとなき人に懸想して病の床に就き已に命危く見えけり、この事世に聞わて、やうく帝の御耳にもとまり、且つは孫三郎の素性の賤しからぬさへ知れわたりければ帝は件の女房を孫三郎に降し賜ふに孫三郎喜ぶこと甚し遂に相伴ひて山田の里に歸り來けり、これ清瀧姫なり。姫は兩親の菩提を弔はんとて一伽藍を建て守本尊觀世音を安置せしが、弘法大師この由を聞き賜ひて更に藥師如來と仁王尊とを居ゑ奉り、歸朝の時持ち來りし金龍をこゝに納め、末世の利生を祈り、伽藍の名を金龍山金光寺と稱せりとは口碑に傳ふる所なり。

〔人物〕

力士木川峰右衛門は小原子木川源太郎家より出でしものなり、體格偉大にして力量衆に優れ、遂に當時の力士某の知る所となり、其の弟子となり、京都に至り其の技大に上達して大關に上り、時の朝廷より特に月日の刺繡ある緞子を賜はりしと云ふ、後郷里に歸り、寛政元年五月十二日歿す、高雲院照山良應信士と諡す。

池田榮亮 天保十四年九月十五日飯櫃村に生る、幼にして學を好み、或は漢學の修業に、或は數學の研究に、或は英語の學習に日夜勵精學大に進み、其の德彌高く明治六年六月第二十三番中學區取締となりしを始めとし、第九大區醫務取締第九大區區長同代議人となること再三、明治十二年千葉縣會議員に當選、同年十一月臨時縣會に於て副議長に選ばれ、同十四年三月同議長となる、其の後明治二十一年に至るまで常に縣會議長の榮職にあり、同二十二年十一月之を辭し専ら閑地に於て晩年を送れり、氏は又公共事業に誠意盡力せられ、池田小學校學資金として五百圓を寄附せるを始めとし、或は池田小學校新築費に千圓、其の他數度の寄附金をなし、千葉縣より銀盃の賞を受くること四回、木杯を受くること實に十三回の多きに至れり。

山武郡郷土誌下編終

大正五年五月二十日印刷
大正五年五月廿五日發行

發行兼編輯者 千葉縣山武郡教育會

代表者 加藤輝夫

印刷人 岩倉順造
千葉縣千葉郡千葉町本町三丁目五百四十八番地

印刷所 多田屋千葉活版所
工場千

終

